

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が81例(男性47例(20歳代5例, 30歳代6例, 40歳代7例, 50歳代3例, 60歳代8例, 70歳代8例, 80歳代9例, 90歳代1例), 女性33例(20歳代2例, 30歳代2例, 40歳代4例, 50歳代7例, 60歳代4例, 70歳代7例, 80歳代6例, 90歳代1例), 年齢及び性別非公開1例)あり, 本年の累積報告数は3,051例になりました。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.htm>
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が2例(50歳代男性及び60歳代男性)あり, 症状はともに呼吸困難, 意識障害, 発熱, 多臓器不全などで, 感染地域は国内, 感染経路は水系感染です。本年の累積報告数は5例となりました。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(50歳代男性)(第6週追加報告分)あり, 症状はショック, 肝不全, 腎不全等です。感染地域は国内, 感染経路は創傷感染です。本年の累積報告数は2例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(20歳代女性)ありました。感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は7例となりました。
梅毒は早期には薬物治療で完治できる感染症です。しかし, 検査や治療が遅れたり, 治療せずに放置したりすると, 脳や心臓に重い合併症を引き起こす危険があります。感染予防のために, 性行為時にはコンドーム等を適切に使用しましょう。また, 性器や口腔周囲に異変を感じたら, 性行為を控え, 速やかに医療機関に相談し, 早期発見・早期治療することが重要です。
- ・ **インフルエンザ**は市内69の定点医療機関から1例の報告があり, 定点当たり報告数は0.01(全国:0.01)でした。昨年同時期の定点当たり報告数は9.09(全国:7.49)であり, 例年と比べると少なく, 全国的にも流行の予兆は見受けられませんが, 感染予防に努めましょう。新型コロナウイルス感染症と同様, 手洗いやマスクの着用などが重要です。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では, 半期ごとのエイズ患者・HIV感染者数を集計し公表しています。京都市内の医療機関から, 令和2年7月から12月末までの間, エイズ患者6例・HIV感染者4例, 計10例の報告がありました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ **新型コロナウイルス感染症 81例**【1月以降の累積報告数 3,051例】
- ・ **四類:レジオネラ症 2例**【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ **五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例**【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ **五類:梅毒 1例**【1月以降の累積報告数 7例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

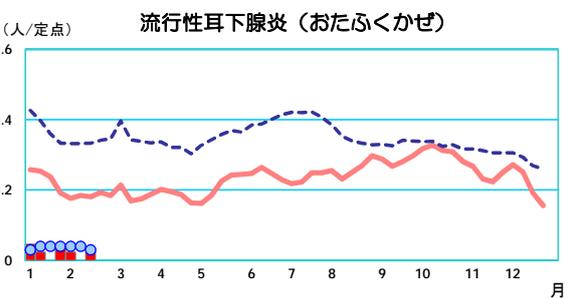
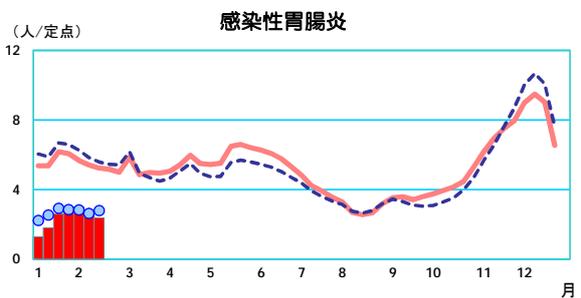
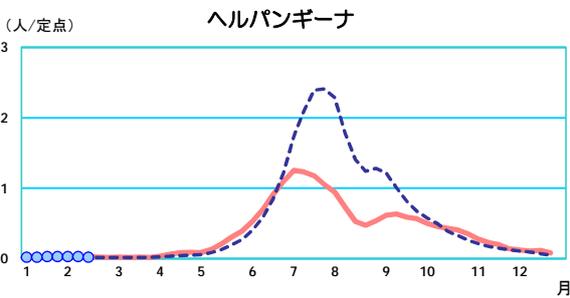
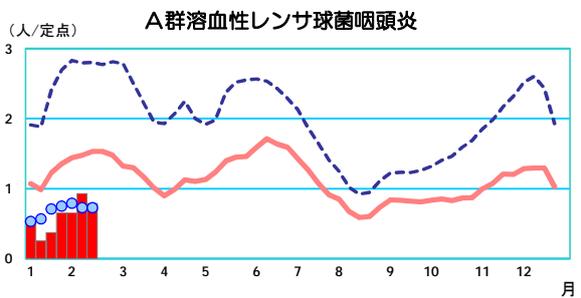
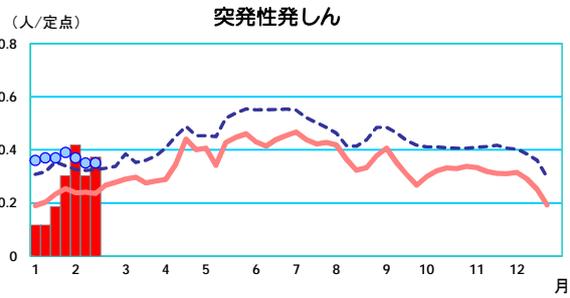
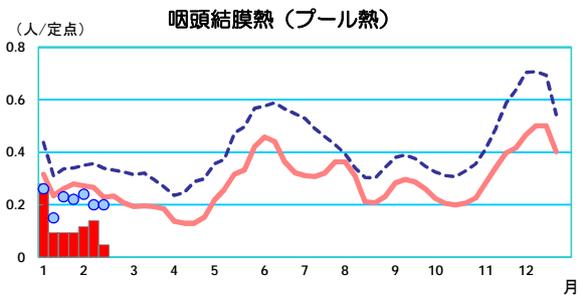
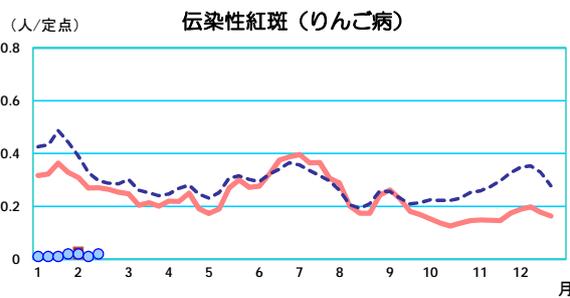
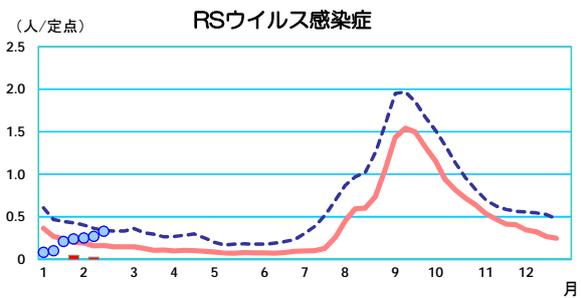
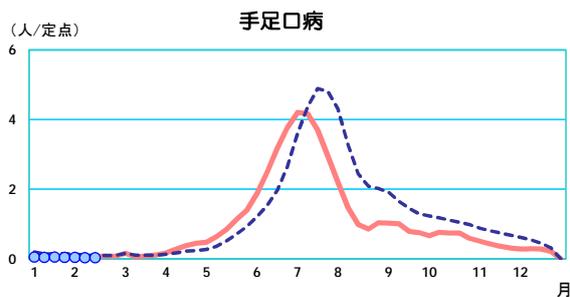
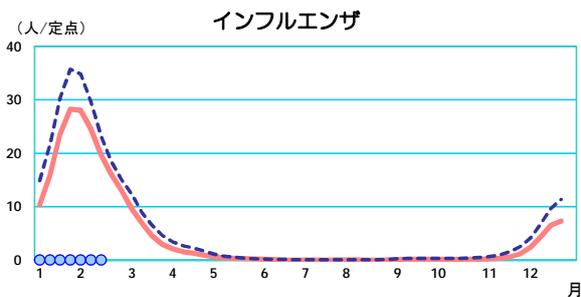
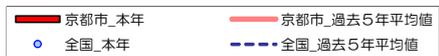
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.37	102
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.79	34
	③ 突発性発しん	0.37	16
	④ 水痘	0.16	7
	⑤ 咽頭結膜熱	0.05	2
	⑤ ヘルパンギーナ	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

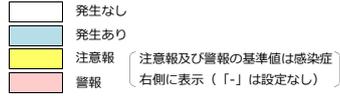
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年2月24日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

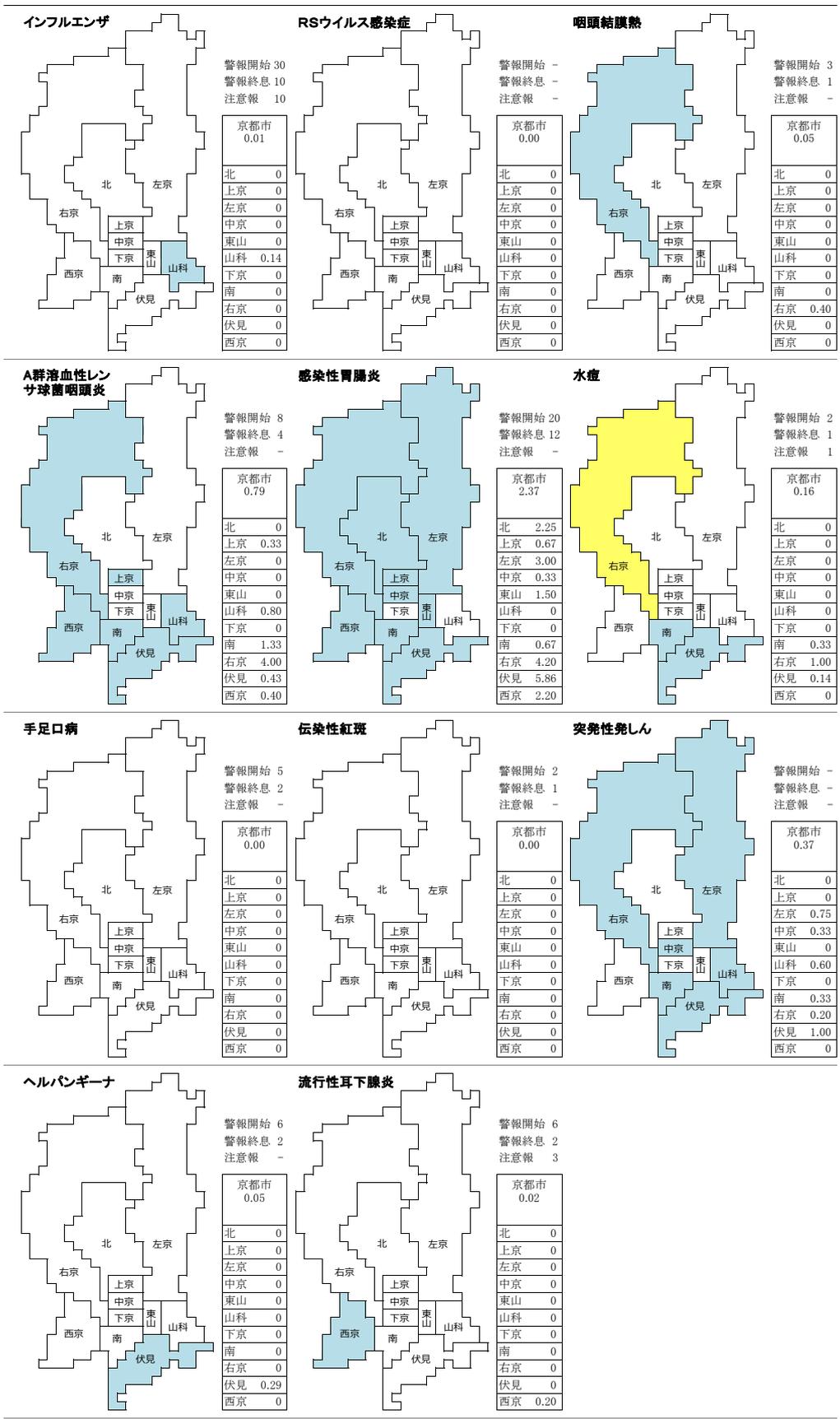
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第7週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第7週(2月15日～2月21日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、半期ごとのエイズ患者*・HIV感染者**数を集計し公表しています。京都市内の医療機関から、令和2年7月から12月末までの間、エイズ患者6例・HIV感染者4例、計10例の報告がありました(令和3年3月2日公表、下記URL参照)。

昭和62年以降の累積報告数は368例(エイズ患者 124例(33.7%), HIV感染者244例(66.3%))となっています(表1)。推定感染経路では、性行為感染が最も多く、284例で全体の77.2%を占めています。中でも同性間の性行為感染が、171例で全体の46.5%と目立ちますが、異性間も102例(27.7%)で決して少ないわけではありません(図1)。診断時の年齢階級別をみると、30歳代(139例)が最も多く報告されています。

近年のHIV感染症の薬剤と治療方法の進歩により、「HIV感染＝死」ではなくなりました。継続的な治療は必要ですが、感染後、早期に発見し、適切な治療を行えば、免疫力を落とすことなく、通常の生活が送れるようになりました。さらに、二次感染の予防にも繋がります。感染初期にはほとんど症状はなく、感染しているかどうかは検査でしかわかりません。京都市では、無料・匿名で検査を行っています。感染機会があれば、新型コロナウイルス感染症流行時であっても積極的に検査を受けましょう。詳細については、以下のURLを参照してください。

*エイズ患者 : HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、感染症や悪性腫瘍などの指定疾患を発症した状態と診断されたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 : HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

【エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者数について(京都市広報資料)】

○[http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0-0.html)

【京都市のHIV検査について】

○<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

(新型コロナウイルス感染症の流行状況等を踏まえ、現在は一部の検査を見合わせ、全て予約制で検査を実施しています。)(予約制でも無料・匿名で、プライバシーは守られます。)

表1 年次別報告数の推移(京都市)

報告年	総数	エイズ患者	HIV感染者	男	女
昭和62年～平成27年	286	93	193	264	22
平成28年	16	5	11	16	0
平成29年	19	9	10	18	1
平成30年	18	6	12	17	1
令和元年	15	3	12	14	1
令和2年	14	8	6	14	0
総計	368	124	244	343	25

図1 京都市の推定感染経路別の報告割合(昭和62年～令和2年)

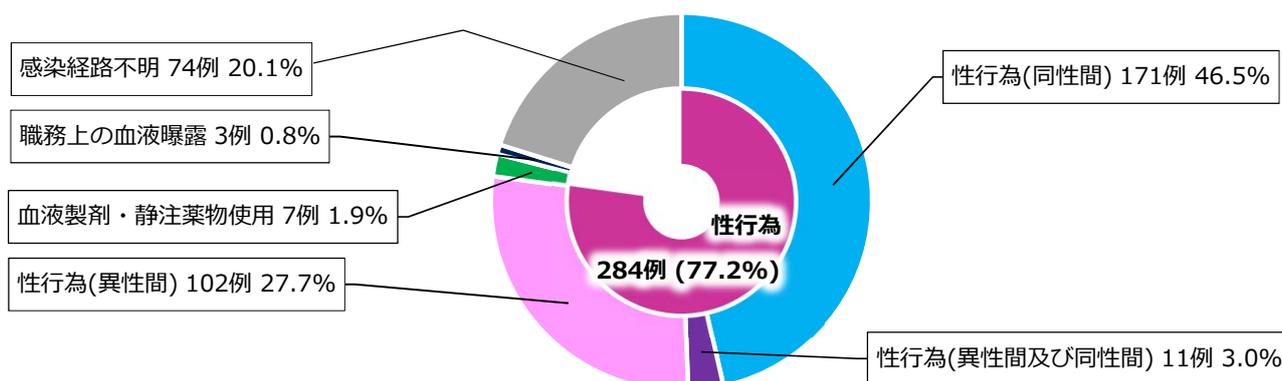
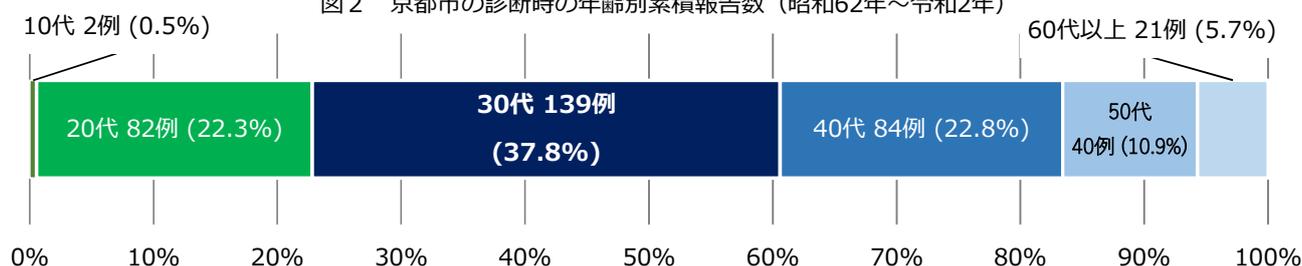


図2 京都市の診断時の年齢別累積報告数(昭和62年～令和2年)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第7週

疾病,行政区別報告数

2021年2月15日～2021年2月21日

データ入手日:2021年2月24日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	-	-	-	12	-	-	-	3	-	-	-	-						
中京	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	1	-	-	4	-	-	-	-	3	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	-	-	-	4	2	1	-	-	1	-	-	-	-						
右京	-	-	2	20	21	5	-	-	1	-	-	-	-						
伏見	-	-	-	3	41	1	-	-	7	2	-	-	-						
西京	-	-	-	2	11	-	-	-	-	-	1	-	-						
京都市計	1	-	2	34	102	7	-	-	16	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																			
北	-	-	-	-	2.25	-	-	-	-	-	-	-	-						
上京	-	-	-	0.33	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-						
左京	-	-	-	-	3.00	-	-	-	0.75	-	-	-	-						
中京	-	-	-	-	0.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-						
山科	0.14	-	-	0.80	-	-	-	-	0.60	-	-	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
南	-	-	-	1.33	0.67	0.33	-	-	0.33	-	-	-	-						
右京	-	-	0.40	4.00	4.20	1.00	-	-	0.20	-	-	-	-						
伏見	-	-	-	0.43	5.86	0.14	-	-	1.00	0.29	-	-	-						
西京	-	-	-	0.40	2.20	-	-	-	-	-	0.20	-	-						
京都市計	0.01	-	0.05	0.79	2.37	0.16	-	-	0.37	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第7週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年2月15日～2021年2月21日

データ入手日:2021年2月24日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		34	-	1	5	2	7	3	2	3	2	3	1	4	-	1						
感染性胃腸炎		102	1	3	12	13	8	10	8	9	5	4	7	13	2	7						
水痘		7	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	2	2	-	-						
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		16	-	3	10	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.01	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.05	-	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.79	-	0.02	0.12	0.05	0.16	0.07	0.05	0.07	0.05	0.07	0.02	0.09	-	0.02						
感染性胃腸炎		2.37	0.02	0.07	0.28	0.30	0.19	0.23	0.19	0.21	0.12	0.09	0.16	0.30	0.05	0.16						
水痘		0.16	-	-	-	-	-	0.02	-	-	0.05	-	0.05	0.05	-	-						
手足口病		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		0.37	-	0.07	0.23	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.05	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第7週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年2月24日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1	-	-	2	1	-	1
RSウイルス感染症	-	-	2	-	1	-
咽頭結膜熱	4	4	4	5	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	16	28	28	40	34
感染性胃腸炎	77	111	126	129	116	102
水痘	3	5	5	4	6	7
手足口病	1	2	1	3	1	-
伝染性紅斑	-	1	-	2	-	-
突発性発しん	5	8	13	18	13	16
ヘルパンギーナ	2	2	1	1	2	2
流行性耳下腺炎	1	-	2	1	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	3	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 ※2	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4	-	-	-	-	-	-
合計	105	152	184	192	185	165

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1	-	-	0.03	0.01	-	0.01
RSウイルス感染症	-	-	0.05	-	0.02	-
咽頭結膜熱	0.09	0.09	0.09	0.12	0.14	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0.37	0.65	0.65	0.93	0.79
感染性胃腸炎	1.79	2.58	2.93	3.00	2.70	2.37
水痘	0.07	0.12	0.12	0.09	0.14	0.16
手足口病	0.02	0.05	0.02	0.07	0.02	-
伝染性紅斑	-	0.02	-	0.05	-	-
突発性発しん	0.12	0.19	0.30	0.42	0.30	0.37
ヘルパンギーナ	0.05	0.05	0.02	0.02	0.05	0.05
流行性耳下腺炎	0.02	-	0.05	0.02	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.30	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 ※2	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4	-	-	-	-	-	-
合計	2.52	3.77	4.26	4.46	4.30	3.83

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。